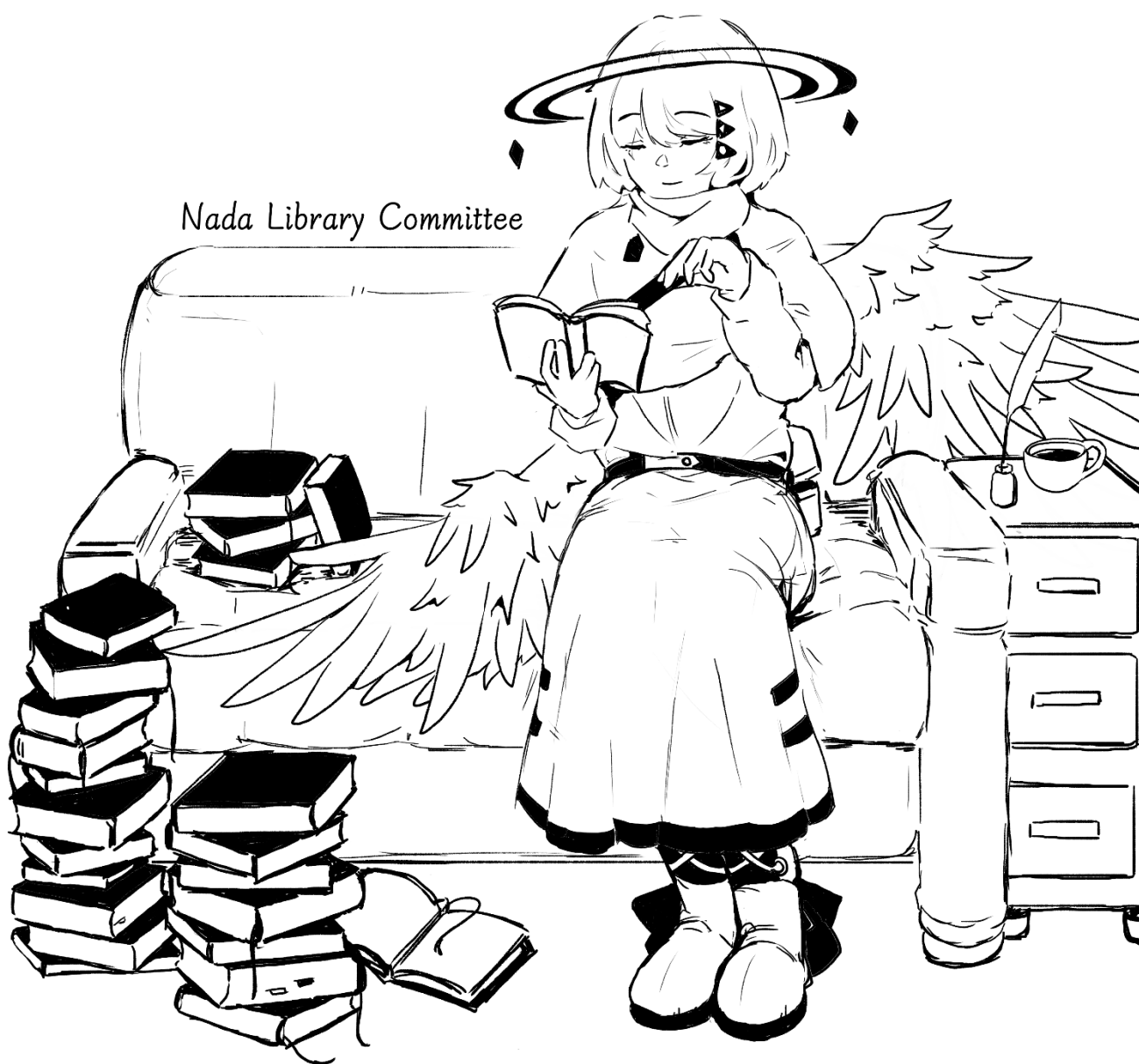


第79回灘校文化祭

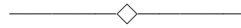
灘校図書委員会誌 2025

Nada Library Committee



まえがき

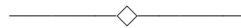
本を読むという動作には、あらゆる楽しみが詰まっているといっても過言ではありません。図書館や書店まで赴いて、本の背表紙を眺めているとき。タイトルや装丁に惹かれて、そっと一冊を取り出すとき。あたらしい本の表紙を開いて、未知の世界に入っていくとき。読んだことのない本を読み始める瞬間は、いつになってもわくわくします。そこまでの過程も、時間をかければかけるだけ心躍るものです。



実際に本を読み進めていく過程にも、さまざまな要素が絡んでくることでしょう。気候や部屋のように、その時の気分といったものによって、本の満足感というのは変わってくるものです。

皆さんが本を読むうえで、一番好きな空間はどういったものでしょうか。雨の日に屋内で読書するのもいいですし、屋外で日に当たりながら読むという人もいるでしょう。通勤通学時に読んだり、寝る前のゆったりした時間に読んだり。掃除をしていたら懐かしい本が出てきて、つい読みふけてしまった……なんていうのも魅力的な状況ですね。本を読むシチュエーションにも時間帯にも、人それぞれの好みがあることと思います。

ちなみに私は葉を本に挟む瞬間、あるいは本から葉を外す瞬間、この両方が大好きです。いままで読んだところとまだ読んでいない部分を分け、これから先の展開への期待をも膨らませてくれる。そんな葉は、私の読書にとって欠かせない存在です（この冊子には葉に関する記事も寄せられています！）。



紙媒体の小説およびネット小説、ならびにライトノベルおよび純文学……と、一口に文章といっても様々な形態があるものです。そして図書委員の数だけ、人の数だけ読書スタイルというものは存在します。

本を読んで考えることもまた、十人十色です。誰かにとって、小説は息抜きかもしれませんし、創作活動の資料になるかもしれません。インプットのために本を読む人もいれば、アウトプットをするために本を読む人もいますね。

あなたがこの会誌を読んで、そんな読書の一端を見ることができたなら、私としては嬉しいです。

今年もあなたに、よき本との出会いがありますように。

Septem
2025 年 5 月

○目次

まえがき

1. 最近読んだ本（ほぼほぼ漫画）に登場する登場人物の名字について、全国にいる人数でランキングを作る（UDK）————— p. 3
2. 地学の面白さを探る（メダカ）————— p. 6
3. S F のススメ（本ポンず）————— p.10
4. 五十円玉二十枚の謎（柿すもも）————— p.12
5. 栞（藍澄）————— p.14
6. 割とこんがらがる「表記」の話（あづみさくら）————— p.15

最近読んだ本（ほぼほぼ漫画）に登場する登場人物の名字について、 全国にいる人数でランキングを作る

UDK

はじめに

はじめまして、UDK です。図書委員会誌を書くのは三回目です。昨年までは書く内容が思いつかなかったのですが、今年はすぐに決めることができました。ちょっとだけ温めていた「アレガデネブアルタイルデネブ 君が指さす夏の半直線」という一発ギャグも使わずにも、~~字数が稼げそう~~ 書けそうなことがいっぱいあるのでさっさと内容に入ります。

内容

みなさんの名字は珍しいですか？

僕の名字は TOP100 に入りはしないものの、珍しい名字でもない、それぐらいの名字です。

また、本を読んでいると思うことがありますよね？ そう、本に出てくる登場人物の名字、あまりにも見たことない名字ばかりだなと。本の中で「藤浪」とか「石川」とか見たことないぞと。そこで今回、僕は僕が最近読んだ本（ただしほとんどが漫画）に出てくる名字を名字由来ネット (<https://myoji-yurai.net>) を使って、手作業でランキングにしていきたいと思います『YO』！

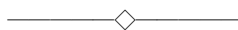
ランキング



中村（8 位） 球詠	小林（9 位）小林さんちのメイドラゴン
山口（14 位） GA	松本（15 位）わたてん
山崎（21 位） 球詠	森（22 位）涼宮ハルヒちゃんの憂鬱
池田（23 位） ゆるゆり	岡田（32 位） 球詠
藤田（34 位） 球詠	村上（37 位）ステラのまほう
中野（49 位） けいおん！	武田（89 位） 球詠
吉川（108 位） ゆるゆり	川口（119 位） 球詠
関（120 位）ステラのまほう	川崎（129 位） 球詠
本田（130 位）ステラのまほう	秋山（133 位） けいおん！
星野（146 位） わたてん	野田（153 位） 桜 Trick、GA
望月（162 位） NEW GAME!	高山（184 位） 桜 Trick
南（200 位） 桜 Trick	杉浦（206 位） ゆるゆり
青山（223 位） ごちうさ	飯塚（239 位） 桜 Trick

西	(244 位)	A チャンネル
野崎	(308 位)	GA
大城	(339 位)	はるかなレシーブ
比嘉	(351 位)	はるかなレシーブ
古谷	(387 位)	ゆるゆり
園田	(458 位)	桜 Trick
飯野	(623 位)	ステラのまほう
宇佐美	(649 位)	ろこどる
平沢	(782 位)	けいおん!
大和	(877 位)	NEW GAME!
日下部	(905 位)	らき☆すた
西垣	(1222 位)	ゆるゆり
池野	(1388 位)	桜 Trick
高良	(1514 位)	らき☆すた
朝比奈	(1739 位)	涼宮ハルヒちゃんの憂鬱
小路	(2031 位)	きんいろモザイク
大室	(2222 位)	ゆるゆり
猪熊	(3355 位)	きんいろモザイク
長門	(3416 位)	涼宮ハルヒちゃんの憂鬱
宇治	(3708 位)	ごちうさ
布田	(4055 位)	ステラのまほう
田井中	(4146 位)	けいおん!
古泉	(4587 位)	涼宮ハルヒちゃんの憂鬱
天久	(5506 位)	天久鷹央シリーズ
船見	(6619 位)	ゆるゆり
才川	(8275 位)	小林さんちのメイドラゴン
八神	(8837 位)	NEW GAME!
赤座	(9371 位)	ゆるゆり
柊	(12592 位)	らき☆すた
恋塚	(16926 位)	こみっくがーるず
鶴屋	(20609 位)	涼宮ハルヒちゃんの憂鬱
折部	(33423 位)	キルミーベイビー
桐間	(35607 位)	ごちうさ
九条	(40861 位)	きんいろモザイク
涼風	(66643 位)	NEW GAME!
姫坂	(81323 位)	わたてん
吉野屋	(90354 位)	ひだまりスケッチ

飯島	(268 位)	NEW GAME!
泉	(322 位)	らき☆すた
大村	(345 位)	球詠
藤川	(374 位)	ステラのまほう
篠田	(433 位)	NEW GAME!
遠山	(530 位)	NEW GAME!
立花	(638 位)	はるかなレシーブ
滝本	(653 位)	NEW GAME!
池谷	(872 位)	ステラのまほう
夏目	(888 位)	ひだまりスケッチ
大宮	(1061 位)	きんいろモザイク
鳴海	(1242 位)	NEW GAME!
星川	(1440 位)	NEW GAME!
大道	(1612 位)	GA
峰岸	(1891 位)	らき☆すた
種村	(2191 位)	わたてん
勝木	(2781 位)	こみっくがーるず
百武	(3415 位)	ステラのまほう
小日向	(3456 位)	ろこどる
黒井	(3798 位)	らき☆すた
滝谷	(4086 位)	小林さんちのメイドラゴン
一井	(4405 位)	A チャンネル
色川	(5185 位)	こみっくがーるず
遠井	(6368 位)	はるかなレシーブ
阿波根	(6957 位)	NEW GAME!
大空	(8642 位)	はるかなレシーブ
桜	(9123 位)	NEW GAME!
百木	(12001 位)	A チャンネル
友兼	(14401 位)	GA
三ヶ月	(19324 位)	ろこどる
真手	(27863 位)	ごちうさ
歳納	(32430 位)	ゆるゆり
烏丸	(37911 位)	きんいろモザイク
小鳥遊	(58926 位)	天久鷹央シリーズ
葉月	(72150 位)	NEW GAME!
天王寺	(89286 位)	A チャンネル



存在が確認できなかった名字

真ヶ土（^位）	小林さんちのメイドラゴン	鴻ノ池（^位）	天久鷹央シリーズ
涼宮（^位）	涼宮ハルヒちゃんの憂鬱	萌田（^位）	こみっくがーるず
白咲（^位）	わたてん	香風（^位）	ごちうさ
保登（^位）	ごちうさ	天々座（^位）	ごちうさ
奈津（^位）	ごちうさ	条河（^位）	ごちうさ
呉織（^位）	キルミーペイパー	西深井（^位）	ろこどる
名津惜（^位）	ろこどる	琴吹（^位）	けいおん!
久世橋（^位）	きんいろモザイク		

終わりに

実在の人物がモデルとなっていると思われる「球詠」は全体的に高順位に、実在の人物以外がモデルとなっている「ご注文はうさぎですか？」や「きんいろモザイク」は存在しなかったり、存在しても低順位であったりすることが多かったです。個人的には天久鷹央シリーズの「小鳥遊」が全国におよそ 30 人しかおらず、「鴻ノ池」にいたってはいないという結果は意外でした。

みなさんも最近読んだ本のキャラクターの名字を調べてまとめてみてはいかがでしょうか？

おわりに

阪神がアレンパはできなかったうえに、藤浪もあまり活躍することができませんでしたが、新監督の藤川監督と新天地のマリナーズ傘下に移籍した藤浪に期待したいですね。

また来年の会誌で会いましょう！

地学の面白さを探る

メダカ

0. はじめに

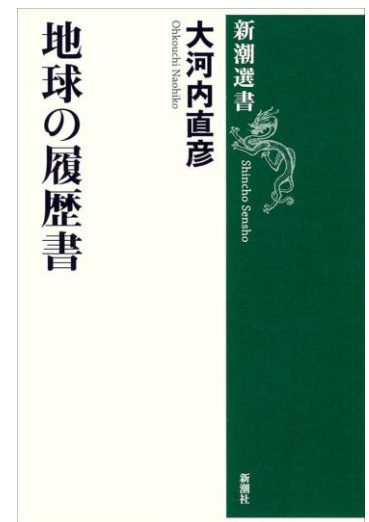
昨年の会誌では地図、特に境界線や飛び地などに関する本を紹介させて頂きました。そこで、今回特集するテーマは、地理学と深い関わりを持つ「地学」です。

皆さんが「地学」と聞いて思い浮かべるものは何でしょうか。古代から地球を記録する地質？我々の脅威となる地震？生命を育む広い海洋？それとも人類が古から夢見ていた果てしない宇宙？「地学」はこのように地球科学や天文学に関する幅広い分野に渡ります。今回は、これらの地学の面白さを伝えてくれる本を3冊紹介します。

1. 『地球の履歴書』（大河内直彦、新潮社）

履歴書という名前の通り、地球の46億年の歴史について、物語の形式で緻密に解説した本である。地学の中では地質、固体地球、海洋の分野が主となっている。

地学を考える上で、地球の46億年の歴史はもちろんだが、一般に「歴史」と言われるような有史時代も避けては通れない。地学の考え方の歴史は紀元前まで遡る。エラトステネスが、井戸を用いて地球の一周の長さを概算したことは有名だ。そこから、海底の観測技術の発展、数多くの命が犠牲となった南極探査、20世紀最大の火山噴火…など、数多くの歴史的事実と結びつけて地学を解説している。まるで我々が地学の研究者になったかのような感覚を覚えさせる、と言っても過言ではないだろう。



灘校の位置する神戸に関する話題も登場する。有馬温泉だ。

日本書紀に2人の天皇が有馬温泉を訪れたことが記されていたり、豊臣秀吉が再三有馬温泉を訪れて千利休と茶会を開いたり、有馬温泉は古くから権力者に愛されてきた。しかし、どのような成り立ちだったかはこの本が書かれた2015年当時はまだよく分かっていなかった。なぜなら、有馬温泉は近くに火山がないのにも関わらず、90℃を超える高温だからだ。また、ラジウムやラドンが多量に含まれていることから、何らかの理由で長く地底にいたことは示唆されていた。

しかし2020年、神戸大学によってその不思議が一部明かされた。近畿、中国地方では、九州地方と比べて沈み込んでいるフィリピン海プレートの温度が高く、比較的浅い場所でプレートから直接高温の水が出ていて（→プレート直結型温泉＝有馬温泉）、その付近で水が不足してマグマ、火山を形成できない、という説だ。

（出典：神戸大学「近畿地方に活火山がなく有馬温泉が湧く原因を解明」https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/2020_09_14_02/）

この本の筆者は、「科学の最前線は、日々休むことなく進んでいく。」と主張している。このような所にも、

それが表れていると言えるだろう。

難解なものの、文体も読みやすく、地学に触れたことが無い方にも分かりやすく解説しているため、特に歴史好きの方が地学入門として読むのにもおすすめである。

2. 『図解 身近にあふれる「天文・宇宙」が3時間でわかる本』 (塚田健、明日香出版社)

1.が主に地質に関することを評論していたのに対し、これは暦や星座のことから宇宙物理学のことまで幅広く天文学の基礎を紹介する本である。

本は星座や天体の名前といった比較的身近な物事から始まる。天体の名前を遡ると様々な歴史が見えてくる。例えば平安時代の枕草子には次のような記述がある。

「星はすばる。彥星。夕づつ。よばひ(夜這い)星、すこしをかし。」

順にプレアデス星団、アルタイル、金星、流れ星のことである。プレアデス星団はこの後紹介する『月まで三キロ』にも登場する有名な散開星団だが、すばるという呼び名が当時からあったことには驚きだ。

この後、太陽や月といった最も身近な天体から、太陽系、恒星、そして銀河と次第に遠くの天体に移る。少し難解な概念も、歴史などを通じて分かりやすく説明されている。

例えば、惑星の運動について。惑星は恒星とは違って、順行(東→西)、留(ほとんど動かない)、逆行(西→東)といった動きをする。これが planet(古代ギリシア語で「惑う者」)という名前の由来である。これは天動説/地動説の話と深く関係する。1000年以上信じられていた天動説ではこれをうまく説明できなかった。そこで地動説(太陽中心説)の登場によって、惑星の運動を無理なく説明できるようになったのだ。

3時間で読むのは中々厳しいかもしれないが、宇宙について幅広く知りたいという方にはおすすめの本書である。



ここまでは地学の魅力を評論的に解説してくれる本を2冊紹介してきました。

ここで、小説を通じて地学の魅力を伝えてくれる本を1冊紹介します。

6話からなる短編集ですが、その内の3つを紹介します。

3. 『月まで三キロ』（伊与原新、新潮社）

まずは表題作である「月まで三キロ」。

「――富士山。鳴沢村」

その独身の男は荷物も持たずにタクシーに乗り込み、そう言った。真夜中に樹海が広がる鳴沢村に向かうなんて明らかに不自然だろう。そう、その男は自殺を企んでいたのだ。

男はかつて勤めていた会社からの待遇に不満を感じ、独立したが、事業に失敗し、多額の借金を背負うことになった。やがて貯金が底をつき、離婚のきっかけともなった。

また、男は父との仲が良くなかった。事あるごとに父と対立していた。その上父にある異変が起き、さらに父との関係は悪化していった。

これらのことが彼の自殺願望の一因となった。

タクシー運転手はやけに月に詳しいらしく、「潮汐ロック」「ジャイアント・インパクト説」などの概念を説明して、男と読者に月の魅力を説明する。不自然さに気づいたタクシー運転手が連れて行ったのは鳴沢村ではなく、「月に最も近い場所」だった――

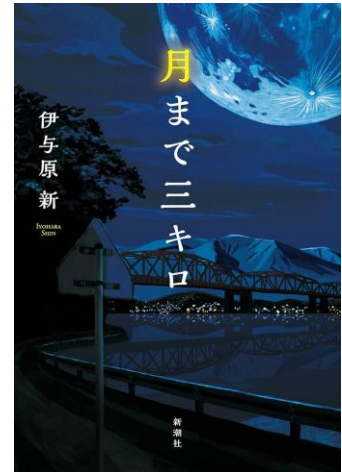
次に「アンモナイトの探し方」。東京の豊洲に住んでいる小学6年生の朋樹は、夏休みに都会の喧騒から離れて北海道の田舎に1人で帰省していた。街の名前は「富美別町」で、蝦夷層群のアンモナイト産地として有名だった。

最初は中学受験に使うからという理由で、富美別町の古い博物館を訪れた朋樹は、化石に興味を持ち、職員であるヨシエの勧めで川に向かった。朋樹を待ち受けていたのは無愛想な老人「戸川」だ。彼は化石に詳しいようで、化石を探そうとする朋樹に、「ノジュール」を発見するように言った。炭酸カルシウムが固結した硬い塊である石灰質ノジュールの中には、状態の良い化石が入っている可能性が高いのだ。ハンマーを貰った朋樹はどんどん丸い石を割っていった。しかし、初日はノジュールを見つけることすら出来なかった。戸川は何者なのか？そして朋樹は化石を発見出来るのか？

余談だが、富美別町は架空の地名だが、作中では、実在する三笠市と夕張市の間に位置する、と説明されている。また、蝦夷層群(実在)のアンモナイトで有名、かつて炭鉱で栄えたといった点から、モデルは三笠市の一帯だと考えられる。富美別町の博物館のモデルは、多くの化石などを展示している三笠市立博物館ではないだろうか。興味を持たれた方は是非行って頂きたい。

最後に「エイリアンの食堂」。

舞台は茨城県のつくば。筑波大学やJAXAの筑波宇宙センター、そして本作品に登場する高エネルギー加速器研究機構(KEK)といった、日本最大の研究学園都市だ。



謙介は小学生の一人娘の鈴花と、つくばで「さかえ食堂」を切り盛りしていた。鈴花は数年前に母である望美を亡くし、それ以降謙介は悲嘆に暮れながらも、娘に寂しい思いをさせないように必死に生きていた。しかし、鈴花はこの頃魔法や怪奇現象といったオカルトを扱った本に興味を持ち出し、謙介は心配していた。

そんな時、食堂にある女性が初来店した。その女性は無口で不思議な雰囲気を持っていた。その行動は偶然にも、鈴花が読んだ本で紹介されていた「プレアデス星人」のものと似ていた。鈴花はその女性を「プレアさん」と呼んだ。

プレアさんはつくばの高エネルギー加速器研究機構で素粒子の研究をしているようだ。宇宙は素粒子と共に誕生した。彼女は、世界でいちばん小さい素粒子のことが分かれば、世界で一番大きい宇宙のことが分かると言う。

彼女は毎日食堂に来て定期的にメニューを注文していたが、ある日から突然音沙汰が途絶え――

以上のような話が書き下ろされている。

著者である伊与原新氏は、大学院で地球惑星科学を専攻した後に作家になったという異色の経歴を持つ。それに裏付けされた地学ネタがふんだんに使われていることは、この書評を読んだだけでも分かったのではないだろうか。

伊与原さんの作品には他にも、今年直木賞を受賞した「藍を継ぐ海」、テレビドラマ化された「宙わたる教室」など多彩な作品がある。科学に関する小説が好きな方は是非読んで頂きたい。

4. おわりに

ここまで3冊の本を紹介させて頂きました。高校においては地学の授業が開講されていないことも多く、中学以降初めて地学に触れた、という方も少なからずいるのではないのでしょうか。しかし、地学(地球科学や天文学)は自然科学の中でも身近で、知識があると日常の解像度が深まります。また伊与原さん以外の作品でも、地学の知識を持っているとより面白く読める小説も少なくありません。この機会に地学の面白さを再認識して頂ければ幸いです。

ここまでお読みくださりありがとうございました！

SFのススメ

本ポンず

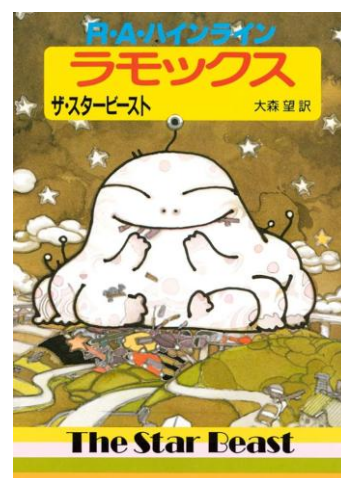
はじめに

SFとはscience fictionの略称で、その名の通り科学的なフィクションのことです。そんなSFですが、近頃盛り上がっているようでいろんな所で耳にするようになりました。そこで、SFに少し興味を持っているけどまだ手を出せてない人に向けて、僕がSFを好きになるきっかけになった本を紹介します。この文章を読んで、少しでもSFのことを好きになってもらえたら嬉しいです。

1. 『ラモックス ―ザ・スタービースト―』

ロバート・A・ハインライン

最初に紹介する本は『ラモックス ―ザ・スタービースト―』です。このタイトルだけだと、ラモックスという大怪獣が暴れまわるお話のように感じますね。概ねその通りですが、いろいろと違います。ラモックスは人類と敵対している凶暴な怪獣ではなく、スチュアート家でペットとして飼われているお茶目でのろまな宇宙怪獣です。そして、小さな女の子のような声で喋ることができます。そんなラモックスが飼い主であるジョン・トマスの留守の間に家の外へつまみ食いに出かけたことがきっかけで、初めて目にする怪物の姿に街がパニックになってしまいました。そこから起こる騒動にラモックスとジョン・トマスはどんどん巻き込まれていき、外交問題にまで発展してしまいます。ラモックスとジョン・トマスはどうなるのでしょうか？とてもユニークなパニックSFです。読みやすい本なので、SFに触れるきっかけとして最適だと思います。



2. 『魂の駆動体』 神林長平

次に紹介する本は『魂の駆動体』です。今より先の未来で人々が意識だけの存在として仮想空間へと移住できる発明をした世界、老人ホームのような集合住宅に住んでいる「私」は友人の子安と生きがいを得るためにリングを失敬しに行きます。そして無事リングを取った後、逃げ帰る最中にとある廃車を見つけるのですが、その廃車は「私」が若いころに「私」の父が使っていた車と同じ車種で、「私」の若いころの記憶を思い出させ、クルマへの興味が蘇ります。そこで子安に勧められて、理想のクルマを設計することを始めます。一方、さらに遠い未来で、人類は太古に絶滅し、翼人という生物が生きている世界、翼人のキリアは、自らの体を人間の体に変身させ、人造人間



と一緒に暮らして、人間について研究していました。あるとき遺跡から自動車の設計図が見つかり、それを見ていると、人造人間がその設計図を作ったのは自分だと意識を持ち始めたのです。そうしてキリアはその人造人間の、理想のクルマを作って走らせたいという願いを叶えるためにそのクルマの製作を始めるのですが…。

この文章を書くために一度読み返したのですが、本当に素晴らしい物語だと思います。自分は読み終えた時に涙を浮かべるほどに心を動かされました。この物語を一言で表すと、「魂」の物語となるでしょう。

3. 「エマノン」シリーズ 梶尾真治

最後に紹介するのは、一冊の本ではなく、「エマノン」シリーズです。このシリーズは主に短編で出来ていて、それぞれに必ずエマノンと呼ばれる女性が登場することが特徴です。エマノンは、地球上で生命が誕生してから今までの記憶を保持していますが、不死というわけではなく、その直系の一代に記憶が受け継がれているのです。エマノンはその特異性から一つの場所に留まらずに旅をしています。そんなエマノンと出会った人の視点で物語は進んでいきます。それぞれの物語では、人情だったり、環境問題だったり、いろいろな題材が扱われています。すべて後味が良いわけではなく、少し考えさせられることが多いですが、とても良い物語なのでぜひ読んでみてください。



終わりに

どうだったでしょうか、この文章では三つのオススメ SF を紹介しました。まだまだ紹介したい SF はたくさんありますが、SF に触れるきっかけとしてこの三つを選びました。どれか一つだけでも興味を持って読んでもらえると嬉しいです。

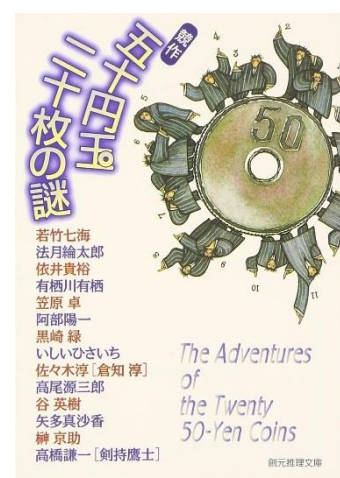
五十円玉二十枚の謎

柿すもも

昭和末期の一九八〇年代、大学に入学したばかりの「私」は、池袋にある大きな書店のアルバイトとしてレジで働いていた。ある土曜日の夕方、「私」がレジにいたときに、ある一人の中年の男が急いだ様子で入店した。その男は書棚に向かうこともなく真っ直ぐレジに来て、手に握りしめていた五十円玉二十枚を「私」の前に並べて、「千円札と両替してください」。「私」はそれに応じ、男は「私」から千円札を受け取るとまた急いだ様子で外に出て消えていった。それ以降、男は土曜日のたびにレジに来て、五十円玉二十枚を千円札に両替してもらいに来るようになった。この男はなぜ書店で毎週、五十円玉二十枚を千円札に両替するのか、そして男はどのように五十円玉を貯めているのか――

これは、女流推理作家の若竹七海さんが実際に体験した出来事。この謎に対して、『鮎川哲也と十三の謎'91』で推理作家の法月綸太郎さんと依井貴裕さんによって解答（※解答をただ書いてだけではなく、小説として物語に乗せて書いたもの）が考え出された。その後、上の二人の解答に加えて、有栖川有栖さんなどのプロ作家の解答と一般公募で集められた解答が、「競作 五十円玉二十枚の謎」という名のアンソロジーとして一九九三年に東京創元社から出版された。

この行動は、どうしても理屈をつけがたい（もちろん、人間は理屈では説明できない行動をとることがたまにある。しかし、このような行動に理屈をつけることこそがこの書の醍醐味だ）。この謎に対しての解答の小説のさわりをいくつか紹介しよう。解答の中身は書かないので、ぜひ各自で考えて、この本を読んでみてほしい。



1. 法月綸太郎さん

主人公は作家と同名、法月綸太郎。彼は作家をしていて、＜五十円玉二十枚の謎＞への解答の締め切りを前にどう書いたものか悩んでいる。そんな時、彼は知り合いの大学生の松浦雅人の女友達が十年前の七海と同じ体験をしている、つまりあの五十円玉男に遭遇したということを偶然知る。綸太郎は、十年前に起こった出来事がなぜ今になって突然繰り返され始めたのかを疑問に思い、謎の男を尾行することにした。

この方の解答では、謎を解決するどころか、「なぜ十年も経ってからまた繰り返され始めたのか」という新しい謎を作っていることが注目すべき点だろう。謎が増えたことによって解決がさらに難しくなったように思われたが、新しい謎のトリック(?) が強力なので、上手く解答が出来上がる。

また、有栖川有栖さんも謎の男を尾行する内容の解答を書いている。

2. 高橋謙一さん（一般公募、最優秀賞）

主人公は高橋という名の検事。最近、高橋が事件を扱う F 市を中心に覚醒剤が大量に出回っていた。

覚醒剤は金額を単位とするもの（一万円、五千円など）と重量を単位とするもの（一グラム、四グラム、五グラムなど）の二つに大きく分けられる。

高橋は覚醒剤の製造・卸売元であると思われる暴力団の裏取り捜査をしていた。

一方、F市のマンションの管理人をしていた楯岡は、管理のついでにマンションの部屋の掃除を有料で行っていたが、その際に部屋に落ちていた硬貨（五十円玉と百円玉）を猫ババしていたことが警察にばれて、逮捕された。この楯岡を逮捕して取調を行っていた知り合いの巡査部長の話を聞いているうちに、高橋は覚醒剤の流出と楯岡の猫ババの事件の関係についてある疑惑が頭に浮かんできたのだった。

一般公募作選考経過にも書いてあるように、ミステリとしての現実味には穴があるが、やはりどのようにして話を＜五十円玉二十枚の謎＞に持っていくかの過程が面白い。この方以外にも、ストーリーが＜五十円玉二十枚の謎＞と関係がないようなところから始まって、＜五十円玉二十枚の謎＞の解答には触れつつも小説の核は別のところにある、という話は複数あった。

このようなジャンルの小説、つまり日常の些細な、しかし不可解な出来事に対して推理をしていくという小説は数多くある。ミステリの一ジャンルとして「日常の謎」という名で存在しているので、興味を持った方は是非調べてみて欲しい。

今年、ある先生と話しているときにふと、本の葉は本当に必要なのか、という話になった。葉は自分がどこまで読んだかの印となる役割を持っているが、それは人間の記憶力でまかなえるものじゃないかということだ。

僕としては、しおりを挟んでいる箇所をぱっと開けることに多少の不満を持っている。本を開き、どこまで読んだかとページを繰っている瞬間の、それまでのエピソードや議論の流れが頭の中で高速再生されていく感覚、その感覚が僕の中に時間的な厚みを生んでくれる。それは近代的な時計による機械的時間ではなく、本の中の数日が一瞬の間に流れたり、一時間が何時間にも感じられたりする、そんな伸び縮み自在な時間である。

しかし、葉を挟むとその過程をたどらないため、どうも本が薄っぺらいように感じてしまうことがあるのだ。いわんや電子書籍。

その先生曰く、葉は人間が記憶するという機能の一部を外に移したものであるが、とてつもない分厚さの大著でもない限り、その記憶力は自分で持っていていいだろうと。毎度毎度の四則演算のために電卓を用いるのか、というと分かりやすいかもしれない。

しかし、葉好きの気持ちもとても理解できる。カチューシャのごとく本にワンポイントのおしゃれを施せる素晴らしいグッズだ。また、素材によっては紙の本との相性が良く、いい味を出してくれることもある（実際、逆張りのようだが、私も白川郷に行ったお土産として、木の皮を薄く削り、表面に合掌造りの輪郭を施したアルミニウム箔が貼られた葉を使っている）。その個人個人の気持ちは理解できるが、イベント的な、とりあえず折り紙で作った葉や押し花をラミネートした葉をいっぱい作っていっぱい配ろう！という流れには、そんなにおしゃれな葉を必要とする人がいるのかと少し心配に思うことがある。

記憶補助、ファッションとしての葉については以上のように考えているが、長い期間で見たときの記憶装置としての葉は侮れないぞ、とも思っている。

以前、出版会社の広告でこういうのがあった。家にあった古い本を読んでいたら、自分がまさに面白いと思ったページに母親のものと思しき葉が挟まっており、母親と間接的に共感できたような気がして嬉しかった、という趣旨のものだ。他人が昔挟んだ葉でも、自分が昔挟んだ葉でも、その本の中で、自分が今とてもいいところだと思っている山の地点に打ち込む旗のように存在する葉は、そのときの自身の感情を圧縮ファイルのように保存しておいてくれる。これはすごいと思う。どうしても昔読んだ本などを振り返ってみようと思っても、丁寧に読むのが面倒であったら、全てのページをぱらぱらっと均一的に流し見する、なんてことになりかねない。それならばピンポイントでその場面に思いをはせる方が僕にとっては有意義である。

とまあ結局僕はどうしているかというと、分厚い長編小説についている紐の葉はありがたく使わせていただき、日記には葉を挟み、文庫本では使わないという一貫性のないことをしているのだ。

割とこんがらがる「表記」の話

あづみさくら

僕は文藝同好会にも所属しておりまして、図書委員会の文章（尚友やこの会誌などですね）も合わさってかなり多くの文章を書いていると自負しております。少なくとも文藝同好会の中では多い方です。文藝の人たちは基本的に俳句に明け暮れておりますので、逆に小説ばかり書いている自分は文字数的に多く書くことになるというわけです。

どういう小説を書くか、ストーリーとかトリックとかオチとか合間に差しはさむ小ネタとか、そういうものに悩む時間も多いいことには多いですが、自分の文章を推敲したり自他問わず文章を校正したりすることも多々あります。その過程で、日本語という文章の記法もいろいろ知りました。

推敲においてはもちろん最適な表現を求めて文章を練ります。決して語彙だけの問題ではなく、文意が通るようにすることも忘れてはなりません。複雑な文章にしたり、やたらと一文を長くしたりすることも表現技法のうちには含まれますが、そのせいで日本語として成り立たない文章になってしまっては元も子もありません。正確に言うと主述のねじれという問題が起きやすくなります。他人の文章を校正していても時折見かけます。

校正はつまり文章を読み、誤字脱字が無いかを主として、文法や言葉の使われ方として適切か、設定上の矛盾が無いか——雨が降っているシーンなのに両手に荷物を持って外出したり、登場人物の身長が場面によって変わっていたりしていないか——をチェックする作業です。出版物として世に出ている文章はほぼ全て校正の工程を経て、文章としての完成度を高めてから印刷されています。

推敲と校閲のどちらも文章を何度も読み返すことは当然として、日本語について深く広く知っていることが求められます。今回の文章では主に日本語の表記について語っていかうと思います。推敲や校正もちろん興味深いテーマですが、表記は、例えば皆さんの手元にある本をぱらっとめくだけでもいろいろ気づくことはあるはずです。日常に溢れる文字を見つめるきっかけになればうれしいです。

重複表現の話

いわゆる「馬から落馬的表現」というやつです。「馬から落馬」という言葉は、「落馬」自体が「馬から落っこちる」という意味ですから「馬から落馬」としてしまうと「馬から馬から落っこちる」という意味になり、「馬から」が重複してしまいます。ですから、「馬から落ちる」または単に「落馬する」と改めるのがよいという話です。こういう表現は実は数え切れないほどあり、チェックの目をすり抜けて世に出ているものも多々あります。

有名どころでは、「新年明けましておめでとうございます」が誤りであるというのを聞いたことがあるかもしれません。「新年」と「明けまして」が意味的に重複しているという説や、「明ける」には「梅雨明け」のように「終わる」という意味があるので「新年が終わりましておめでとう」となり不適切だという話もあります。実際に天皇陛下が今年の一般参賀で使用された表現は「新年おめでとうございます」であり、これは文法上何ら問題ない表現です。

「違和感を感じる」というのも有名な誤りとして知られています。「違和感」の中に「感」が入っているのだから、それを「感じる」と言うとは「感」が重なって違和感を感じてしまう、という問題です。この場合

は「違和感を覚える」や「違和感がある」と直すのが一般的です。

「過半数を超える」も重複表現とすることができます。「過半数」自体に「半数を超えた数」という意味がありますから、過半数をさらに超えてしまうと本来意味したいことから離れてしまいます。これに限らず数字の表現は注意が必要で、「以下」と「未満」の使い分けも有名どころです。試しにここに 100 人がいるとして、それぞれ確認してみましょう。

「50 人以上」は 50～100 人。「50 人以下」は 0～50 人、「50 人未満」は 0～49 人。「半数」は 50 人、「過半数」は 51～100 人。「半数を超える」が 51～100 人ですから、「過半数を超える」は 52～100 人ということになります。違和感を覚えていただけたでしょうか。

ゴビ砂漠も、実は重複表現だというのは豆知識的に語られています。「ゴビ」自体がモンゴルの言葉で「砂漠」を意味するからそうですが、こういった日本語以外の言葉と組み合わせた単語における重複表現は（「ゴビ砂漠 砂漠砂漠」とか検索してもらえればわかりますが）数えきれないほどあり、（少なくとも自分がする）校正においては一般名詞であるという判断から指摘しないことにしています。

重複、というと二重尊敬的な誤った敬語に関しても気をつけなければなりません。「〇〇さん、いらっしゃられますか？」というセリフをたまに聞きますが、これは尊敬表現が重複してしまっており、正しい言葉づかいではないとされます。「いらっしゃる」自体が「いる」の尊敬語であり、「～られる」も尊敬表現なので二つ合わせて使ってしまうと二重敬語となります。古文においては帝などへの最上級の尊敬表現として二重尊敬が用いられますが、現代語においては間違った文法とされているので注意が必要です。

記号の話

文藝同好会は灘校でほぼ唯一、縦書きで部誌を書く部活です。それゆえ、英数字や記号を用いる際も注意すべきことが多いです。もちろん横書きにおいても注意が必要な表記ルールもあるので、見ていきましょう。

……（3 点リーダ）と——（ダッシュ）は二つセットで使わなければならない、というのは聞いたことがある人もいるかと思います。どちらも語句の挿入や、小説における声にならない声、感情の余韻、物語のテンポなどを表現するときに用いられるものです。これには比較的強力なルールがありまして、「3 点リーダ/ダッシュを 2 つ続けて用いる」というのが一般的に文章のルールとされています。具体的には、・・・（中黒三つ）、。。。 （句点三つ）、、、、 （読点三つ）、——（伸ばし棒三つ）、・・・・・・（中黒六つ）、。。。。。（句点六つ）、。。。。。（読点六つ）、————（伸ばし棒六つ）、これら全て誤りとされます。少なくとも校正においては必ず確認が入る点になります。ですので、このルールを知っている人は Twitter やブログなどで「でも、お店に着いたらもう売り切れ。。。。」などという文章を見たときムズムズしています。たぶん。「そんなの、面倒くさくていちいち変換してられないよ！」という声が聞こえてくるかと思いますが、辞書登録しておけば瞬時に変換できるようになります。自分はスマホのカナ入力で「たなは」、パソコンのローマ字入力で「ういお」と読みを設定して……と——の二つを登録しています。スマホではついでに・（中黒）も「な」の読みで登録しています。

長～いやつついでですが、「～（全角チルダ）」と「～（波ダッシュ）」の違いというものもあります。単体で使用すると閲覧環境によっては全く同じように見えますが、前者は連続使用すると「～～～」となり、後者は「~~~~」のようにひとつに繋がるという特徴があります。文章に用いる上であまり注意点とかはな

いので説明は省きますが、気に入った方は友達へのメッセージを意味もなくうねうねさせてみて下さい。

縦書きの文章において、英語をどう表示するかはかなり頭を悩ませる部分です。「Aランチ」、「WHO（世界保健機関）」、「ASIAN KUNG-FU GENERATION」、「9mm Parabellum Bullet」など、縦書きの文章にどのよう差し込むかは文章全体の印象にも関わってきますので注意が必要です。私がまとめた校正手順書では、「二桁の英数字及び大文字アルファベット三文字程度の略語は全角で書いて縦向きにする、二桁の数字は半角で書いて縦中横で縦向きにする、それ以外は横書きにする。その上で全ての英数字について作者と協議し表記を決める」としました。ネットで調べても先輩に聞いても、正直なところ「TシャツのTは縦向きがよい」程度しか確実に言えるものはなく、筆者の意向を踏まえて決定するしかありません。文藝同好会では英数字について、作者に必ず確認を取るようになっています。なお、「二〇二五年」などの年号や、「三十二個」などの数詞は原則漢数字です。

横書きを前提にして設計された記号が、縦書きの日本語文章において使いづらい問題は他にもあります。いちばん面倒くさいと思われるのがダブルクォーテーションマークに係る処理です。試しにお手元の端末でダブルクォーテーションマークを打って、変換キーを押したり変換候補を見たりしてみてください。なにやら似たような記号がいっぱいあるでしょう？これらは全て異なる役割があります。見ていきましょう。

「“”と「”」」、これが最もオーソドックスなダブルクォーテーションです。違いがわからない？よく見てください、丸い部分が上だったり下だったりしていますよね。丸が下側に来ているものがダブルクォーテーションでの囲みの始まり側、丸が上のものが終わり側となります。今どきのエディタは賢いので、英字入力モードで入力するときちゃんと最初に打ったクォーテーションと後に打った方の形を適切に置き換えてくれます。

面倒くさいな！と思った方もいると思います。手書きだと書き分けなければならないし、いくらエディタが修正してくれるとはいっても間違えている可能

性も拭えません。そんな方のために、囲み部分の始まり・終わりの区別がないクォーテーションマークも存在します。「”」はご覧のように単純な形をしていて、左右区別なく使うことができます。これは「“”や「”」などの Smart quotes に対して Straight quotes、俗に Dumb quotes（マヌケ引用符）とも呼ばれており、Smart quotes よりはエレガントさに欠けるという見方もありますが、プログラミングにおいては左右気にせず使われるこちらのクォーテーションが主に使用されています。

さてここまではまだ横書きの話です。これを縦書きにすると……？

「こんなふうに」配置がズレてしまします。クォーテーションマークは文字1文字あたりに割り振られている四角形の上側中央についているので、これをそのまま縦書きにしようとおかしなことになるでしょう。では縦書きではクォーテーションマークは使えないのか？いいえ、実は縦書き用のクォーテーションマーク、ダブルミニユートというものがあります。「」と「」の二つ一組で、「縦書き」で見たときに囲み部分の始まり側では右につき、終わり側では左につきます。皆さんも縦書きの文章でクォーテーションマークを使いたくなったときは是非、ダブルミニユートを活用してみてください。

さてこのようにいろいろと種類があつてややこしいダブルクォーテーションマークですが、NHKのニュース放送では少し不思議な使われ方をしています。一例をあげると「“推し活”、需要高まる」と、左上と右下にダブルクォーテーションマークをつけているのですが、これは他所ではあまり見ない記法です。実際に視聴者の中にも気になっている人はいるようで、「平成20年度第3回 視聴者のみなさまと語る会 開催報告書」では参加者からこのクォーテーションマークについての質問が書かれています。「日本語のカギカッコに寄せた使い方である」との解釈もあるようですが、「“推し活”最前線 あふれる推しへの愛 ビジネスチャンスに！」という2024年のネット記事では、タイトルは「“推し活”」

と同一クォーテーションマーク二個、本文では「“推し”」と異なるもの二つセット、記事のサムネイル画像に移っているフリップでは「推し活 “約3人に1人”」と上下についています。特に強い基準は無いのかもしれませんが。

エクスクラメーションマークやクエスションマーク、俗にいうビックリマークやハテナマークは続けて一字にすることがあります。「!!」「!?」は二字に見えますが、実は一文字となっています。「!!」や「!?」をまとめて選択して変換キーを押すと出てきます。

閉じ開きの話

漢字の閉じ開きという話題があります。同じ単語をひらがなで表記することを「開く」、漢字で表記することを「閉じる」と言い、例えば「右に曲がって下さい」は「下さい」を閉じているのに対して、「右に曲がってください」は「ください」と開いた表現をしています。文章の読みやすさを考えたときに、閉じている単語を開いたり、逆にひらがなの単語を漢字に直したりすると文章の印象が変わる場合があります。…先ほど「文章の読みやすさを考えたときに」と言いましたね。何故「読み易さ」ではないのか、「考えた時に」ではないのか、というのも私が閉じ開きを考慮して表現を選択したからなのです。

単語を閉じるか開くかについてはさまざまな基準があり、あえて漢字／ひらがなばかりの文章にするというのも筆者の個性である場合があるので一概には言えませんが、「形式名詞・補助動詞は開く」というものが比較的有力な基準です。形式名詞や補助動詞は、他の単語にくっついて補助的なはたらきをする名詞・動詞のことです。ここで重要なのはこれらの「名詞や動詞としての本来の意味が失われている」という特徴です。本来の意味が薄れているため、字自体が意味を持つ漢字よりも音のみを表すひらがなの方が適切と考えられるのです。「表記すること」「考えたときに」「という特徴」などなど、この文章においても形式名詞や補助動詞は開くようにしています。上の例で「こと」「とき」「いう」はその語本来の意味を体現していません。「ときに」が時計で計れるような何時何分何秒という時間を表しているのか、「という」が口から音として言葉を発することを意味しているのかというと、そうではないことがわかると思います。特に「という」「といった」「ということ」などは頻繁に使用される言葉なので、これらをひらがなに開くこ

とで文章の読みやすさが向上するかもしれません。

もちろん形式名詞以外も閉じ開きを考える場合があります。例えば上の方で「補助的なはたらき」という表現を使いましたが、この場合の「はたらき」もあえてひらがなにしています。ここにおける「はたらき」とは、会社に行って仕事をするという意味での「働く」とは異なっていて、そのものの自体の性質が果たす役割というような意味合いで用いられています。そのため、漢字とは意味するところが異なるという判断からひらがなに開いています。このひらがなの「はたらき」は特に理科の教科書で多くみられます。

「だ液のはたらきを調べよう」という実験をしたことがあるでしょうか。小学校六年や中学校二年で行なうそうですが、「唾液」の「唾」は習っていない漢字なので当然ひらがなで表記されます。しかし、小学校の四年生で習うはずの「働」という漢字までもがここではひらがなになっています。この理由も、おそらく労働とは違う意味合いで「はたらき」を使っているからなのだろうというのが私の予想です。閉じ開きは意外と身近なところに潜んでいます。

もっと範囲を広げた閉じ開きだと、例えばお寿司のことを「寿司」「スシ」「すし」どれにするかとか、一人称の「僕」を「ぼく」や「ボク」とすることで印象が変わるとか、それでいうと二人称の「自分」は「ジブン、本当はやりたくないんとちゃうか？」とカタカナで表記すれば関西弁っぽさが増すとか、いろいろあります。

「子ども」と「子供」のどちらを使うかというのも閉じ開きと似たような問題です。ネットには「子ども」は他人の子で「子供」は自分の子という出典不明の記述もありますが、どうやらこれはどちらでもいいようです。「子ども」も「子供」もどちらでもどこでも使えますが、「供」にネガティブなイメージがあるとして「子ども」を好む人もいます。ちなみに官公庁はどうしているかというと、「こども家庭庁」とすべてひらがなの「こども」にすることにしました。

どっちがどっち！？の話

「づ」と「ず」は、「ぢ」と「じ」よりも頻繁に出てくる使い分けですが、あまり真面目にとらえることも稀かもしれません。そのためか、ネットでは「づ・ず」が逆になっている文章をよく見かけます。ちょっと調べてみたところ、「つづける（続ける）」「つづる（綴る）」など、「つづ」が連続するものは「づ」になります。じゃあ、「一歩ずつ」は？ これは例外のようですね。それから、「せいけんづき（正拳突き）」「やづつ（矢筒）」など元の語が「つき（突き）」「つつ（筒）」と「つ」で始まる場合はそのまま濁って「づ」になります。「おこづかい」は「づ」です。「いなづま」は「ず」です。「かなづかい」「ことばづかい」は「づ」で、「てなづける」は「ず」。一応、「二語に分けにくい言葉は「づ」で表記する」という指針があるそうですが、しっくりこないですねえ……。 「づ」を使う方が特例なので、迷ったら「ず」を使うという方針にしておけば問題なさそうです。

モノの正式名称が習慣的な認識とズレている問題、つまりコンセントがどっちを指すのか、という話題もあります。穴が空いている方が「コンセント」で、差し込む方は「プラグ」というのが正式名称のようです。「気付かずコンセントを踏んづけて痛い思いをした」というのはあまり無い状況なのですね。

以前 COVID-19 が流行っていた頃、私は「感染防止対策」という言葉を見るたびに違和感を覚えていました。「英検対策」と比べれば分かると思うのですが、「対策」が一つ前の名詞にかかる場合「感染防止対策」は「感染防止」に対して対策するということになり、感染を止められなくなります。「意味がわかればそれでいいじゃん」と言われればそこまでですが、やはり「感染対策」や「感染防止のため」、「感染防止

策」とするとしっくりきます。

「おしなべて」と「すべからく」は実は全く異なります。よく誤用されるのですが（自分も調べるまで知りませんでした）「すべからく」の後に来る言葉は「～べき」であり、「当然～のはずだ」「～がよい」というニュアンスが含まれます。単に「みんながみんな」と言いたいときには「おしなべて」を使うのが適切です。

「並びに」と「及び」にも使い分けがありまして、同一の文において使う場合、「及び」が下位カテゴリの併記、「並びに」はより上位のカテゴリを並列させるときに使います。具体的には、「イヌ及びネコ並びにカメ及びキンギョを飼って良い」のように使います。イヌ、ネコ、カメ、キンギョという下位分類を並べるのが「及び」であって、「陸のペット」と「水棲のペット」という二つの上位分類を並べているのが「並びに」ということです。「及び」「並びに」単体で使うときは気にしないでいいですが、「及び」及び「並びに」並びに「加えて」及び「他」などを連続して使う際には覚えておきたいルールです。

長々と失礼しました。ここまで読んでくれたあなたに感謝申し上げます。これまで書いてきたことは、あくまで日本語表記というものの奥深さを紹介したかっただけで、いわば「日本語沼」への招待です。これらの表記について気をつければ見栄えの良い文章が書けるというのはもちろんのことですが、私はそれよりも、既存の文章について表記を気にしながら読んでもらいたいと思っています。お手元にあるその文庫本、郵便受けに入っていたチラシ、新聞、電車内の吊り広告、下水管工事の立て看板、道路標識……。日常生活の至る所に文字があり、文字あるところに表記があります。一度、表記に注目して一日を過ごしてみてください。きっといつもの風景が違って見えるはずです。

～STAFF～

編集・校正 Septem

表紙イラスト Septem

【記事】

UDK メダカ

本ポンズ 柿すもも

藍澄 あづみさくら

2025 年度 灘校図書委員会誌

2025 年 5 月 1 日 発行

発 行 者 灘 校 図 書 委 員 会

印 刷 文化委員会総務課印刷班

製 本 灘 校 図 書 委 員 会

※乱丁・落丁はお取替えいたします。無断転載・複製を禁じます。

